

運転保守状況(備考欄)

1号機

1月26日(金)

高圧注水ポンプの試運転において、高圧注水ポンプ駆動用のタービンの軸封部付近から僅かな水の漏えいが認められた。

2月26日(月)

点検調査の結果、軸封部付近からの漏えい原因は、タービン車室の上部と下部のケーシングをボルト締めする際に、シール材が他に比べ厚くなった部分が生じ、定期試験時の蒸気の熱影響で当該部の隙間が減少し、ボルトの締付トルクが低下したことなどによるものと推定。

対策は、ボルトの締付けを、トルク管理からトルク管理とすき間管理を併用するなど作業要領書の記載を見直すこととした。

また、所内蒸気によるタービン単体試験時に冷却水中への油分の混入を確認。油混入の原因は、タービンの漏えい箇所の確認試験時にタービン軸受けの潤滑油が冷却水側に流入したものと推定。

高圧注水系配管等について油の除去、回収作業を実施し、残存する油分が、原子炉設備に影響を与えないことを確認。

【中国電力(株)公表済み】

3月9日(金)

原子炉起動試験を実施中、17時2分にIRM(中間領域モニタ¹)のチャンネル15の指示が変動し、「B - 自動スクラム²」の警報が発報した。

他のIRM(中間領域モニタ)、原子炉圧力、原子炉水位及び排気筒モニタ等の関連するパラメータに異常は認められないことに加え、当該IRM(中間領域モニタ)を点検した結果から指示の変動は検出器電極部分の異常によるものと判断し、当該検出器を新品に取替えた。

- 1 中間領域モニタ：原子炉の中性子検出器の一種で原子炉の起動および停止時の中性子の量を監視するもの。
- 2 自動スクラム：原子炉の緊急停止をいい「B - 自動スクラム」は、原子炉を緊急停止するためのA・B2つの信号のうち、1つだけが発生した状態。
スクラム信号はA・Bが同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させる。

【中国電力(株)公表済み】